

講演「謄写版のこれまで・これから」

講師：神崎智子（10-48 主催）

※この文章は2019年11月16日に講演されたものを文字起こしたものになります。
この資料の第三者による再配布は禁止です。

今回はご足労いただきましてありがとうございます。並びにご支援をいただいた方々だと思うのですが、本当に誠にありがとうございます。

現在こういう形で展覧会を始めるにあたって、様々なことが起こっていて。それに基づいて本も一緒に作ってしまおうという。。無謀なことをやっておりますが、でも、やり切っていきたい事業だと思いますので、引き続き皆様の温かいご支援をお願いいたします。

今やっている展覧会「MeetsTO-SHA」ということ、「謄写に会う」という意味でつけました。もう、そのままなんですけれども。。

私は10-48.netというwebサイトを作りまして謄写版の版画についてお知らせするというのをやっていたんですがこの「MeetsTO-SHA」今回は10-48にしなかったんですけども、「謄写」ももとはこの「TO-SHA」でドメインを取りたかった。。というのがあったんです。。ドメイン問題インターネットのアドレスのはなしですね。

それがちょっと取れなかったのが急遽、謄写10-48に変更してインターネットのアドレスドメインを取り直してというのが最初のネーミングの由来なんですけれども。これからインターネットで紹介してから10年くらいの間起こったことですね。

で、今起こっていることというあたりのことを今回お話しさせていただきますかと思えます。

先ほども紹介させていただきましたこの本ですね。『謄写版のこれまで・これから』というタイトルをつけて制作をしております。

私の活動なんですけども大阪生まれで、京都精華大学卒業後、謄写版版画を制作をし始めます。この頃は2006年なんですけれどもその後2年後に2008年より謄写版専門サイト10-48.netを開設しました。もうずいぶん後になるんですけれどもYouTubeでの動画などによる技術の公開もさせてもらっています。

他、美術館であるとか以前の小平にあった、武蔵野美術大学の近くにあるアトリエでも活動をしていました。技術調査などということで。幅広いのかなと思うんですけれども。。そんな感じでやっております。

2002年から2006年私、京都精華大学時代はこんな作品作ってました。こういう作品は何で作っているかという謄写版じゃないです。ポリマー版画と言われるわりと新しい版画手法で作ってました。武蔵篤彦先生という版画家がいてその方はポリマー版画や水なし平版とか感光性樹脂板を使用した今の印刷現場にある版を使った版画制作っていうのを積極的に進めていった方になります。

10-48.net

制作工程で環境に優しいであるとか廃液が出ないとかそういった観点で制作を進めていった経緯がありまして、その先生のもとで版画制作をやっておりました。当時はこんな感じの作品です。その後、就職をしまして2006年を卒業後、



Web制作会社に就職します。ホームページを作る会社ですね。就職をしましてそれから2年後ですね。2008年になるんですけども、この時に10-48.netを作りました。

謄写版に出会うのは学生時代だったんですね。学生時代だったんですけども、その時は全然制作はしておらず卒業後に初めて手をつけ始めたという状態です。ですが、その時はもうインターネット上での情報収集であるとか(謄写版の)仲間が全然いない状態だったので、技術的にどういう風にやっていいかわからない状態だったんです。ですので、初めての作品は1年ぐらいかけて、本当に1作作るのに1年かかった状態でやってきました。でもなかなか面白い版画で、面白い表現ができるんだなと感じまして。当時はホームページを作る会社に居たものだからお客さんにホームページの制作を案内するときに、自分制作



実績がないと説明ができないので練習サイト何個か作ってたんですよ。そのうちのひとつがこれだったんですね。実は。当時はホームページを作るシステムとしてMovableTypeというシステムがあるんですけどもその

システムで作る。練習としてこの10-48.netを作って、謄写版をちょっとずつ始めているので、その紹介ができるようなサイ

トということで作りました。デザインから全部やってという状態ですね。

でも練習サイトなんでほっとらかしだったんですよね。ほっとらかしでも結構見てくださる人がいまして。その過程で出会ったのはその年表にも書いてある「トリノコ」さんですね。

トリノコさんは私のサイトを見て始めたというのがあって。。そういった方々のニッチなものですが、情報を求めている方には刺さるようなものだったらしく、ほっとらかしでしたけど、続けてよかったのかなと思うものになりました。

その後、ずいぶん時間が飛ぶんですけども2013年謄写版の冒険という和歌山県立近代美術館で展示をさせてもらうことになりました。



この時まではまだそんなに私も展示会はやってたんですけども、そんなに謄写版自体にフューチャーしてやってる方が少なかったこともありますし細々と続けている作家っていうぐらいの「いち作家」くらいだったんですけどもやっぱりこの展示会に参加することができて大分私の視野もだいぶ変わったような気がして、ひとつのターニングポイントという感じの展示会になります。この時に出品した作品です。その後、続くさきほどの作品からどんどん時を得てこれぐらいの作品になってくるんですけど、随分、表情が変わってきて。当時は線描画が多かったんですけどもツブシ製版という面のように塗りつぶしのような製版も対応するようになって今はこんな感じですね。

おっけい作品を作るようになりました。

で現在の日本での謄写版の動きですね。私だけがこんなことをやってるわけではなくて、皆さんずっとやられている方もいらっしゃるし規模が大きい小さいはもちろんありますけれども、やっております。

今日本では新ガリ版ネットワーク滋賀県のガリ版伝承館が本



□ 神崎 智子 謄写版作品

部になるんですけども、そちらと関東支部にガリ版研究家の志村章子さんが、九州にガリ版研究会というところがありまして、九州福岡なんですけれども、そこがネットワークの支部という形で機能しておりまして、謄写版の道具とかの頒布会を行ったりとか、企画展を行ったりとかされているようですね。

大きいところだとこんな感じの活動ですね。で小さい活動としては関西で京都の美術家さんですね。水口菜津子さんが版画制作をしております、私のこの展覧会にもこちらの作品であるとか、資金を集めた時のクラウドファンディングの時にも水口さんの作品をリターンとしてご用意させてもらったりと、かなり協力的に一緒に活動されている方になります。

九州には先ほどの福岡のガリ版研究会を市民向けの講座を開催をしていたりもしています。

関東では私ですね。他も全国的にイラストレーターさんとか作品に取り入れられて制作している方もたくさんいますし、その方の作品は購入してコレクションしたりという活動も私はしてますんで、細々と（謄写版は）生きてはいます。私しかやってないという技術ではないので、もうちょっと皆さんとつながれたらなと思っております。

謄写版が再注目されている状態なんです。

先ほどの全国的にイラストレーター等がというあたりなんですけども。

DIYによる自主制作を行っているのがちょっと火付け役になっているらしくて自分で印刷してその印刷方法として活版印刷が最初に注目されたみたいですね。

活版印刷があったら、「ガリ版という言葉聞いたことあるけどもなんだろうねって。」そう、そこからガリ版って何ですかというお問い合わせをよくいただいて、私のワークショップに来られたりっていう方々が多い状態になってます。

私の謄写版というのはヤスリによる製版を行っております。

謄写なんて一口に言ってもいろんな方法があるんです。いろんな製版方法あってヤスリによる製版というのが一つになっています。

基本的にガリ版と言われているぐらいなので、ヤスリの上に原紙を置いて鉄筆でガリガリとする方法もそのままの方法でやっております。

もとの技術になったのは日本で堀井という会社が輸入してきたのは、このエジソンミメオグラフという技術を基として商品を作りました。

日本国外でも謄写版はありまして、英語でミメオグラフと言います。日本ではヤスリ製版を行うのでミメオグラフの「ファイルプレートプロセス」といいます。

Meets TO-SHA



日本国外でも謄写版

- 英語では Mimeograph (ミメオグラフ)
- 日本ではヤスリ製版を行うので Mimeograph - File Plate Process
- はじめてのヤスリ製版は イタリアのズッカートのトリポグラフ
- リソグラフによるZINE制作
- 輪転機を使ったワークショップを行っている

初めてのヤスリ製版というのは「トリポグラフ」というものになります。

この図はトリポグラフで製版したものなんですけれども、これはイタリアのズッカートが作りました。日本ではエジソンなんですけれども、最初のヤスリ製版と言われているものはこちらになります。

この状況を知ったのがこのリソマニアという書籍があるんですけども、こちらで紹介されたのが最近になります。2016年のことですね。この本は先ほどのZINE製作にも使われているリソグラフの方に注目した冊子なんですけども、

理想科学さんのリソグラフなんですけども、そちらは元々は謄写版の会社として謄写を刷っていた会社ですよ。

インクも作ったりしてるんですけども、そこら辺も歴史として紹介したりとかされているんですけども英語なんですけれどもこの本で「謄写版とはなんぞや」ということになりました。この本の中でもガリ版＝謄写版とはなんぞやということになります



した。

ですが日本の謄写版って本当にわずかししか書いてないですよ。ファイルプリントプロセスっていうプロセスを、日本でこういうことやってるんだっていうことを言っているのはわずかししか書いてないんですよ。

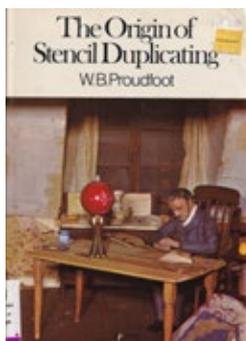
元となった紹介した本というのはこちらにあります。この本「The Origin of Stencil Duplication /W.B. プラウドフート著」ですね。

これがバイブル的になっているみたいなんです。この本から書き起こしてるみたいなんです。

謄写版のもろもろのこと。先ほどのトリボグラフィのことであつたりとか、エジソンのミメオグラフィのことであつたりっていうのは、この本がバイブル的になっててこっちで紹介している状態なんです。

実はこっちの「ガリ版文化史」でもこの本を少し紹介されています。冒頭の部分で紹介されていました。

この本なんです。ですがこれ以上の情報というのは、日本の



The Origin of Stencil Duplication /W.B. プラウドフート著 / 個人蔵

置かれていた情報というのは、(海外では)全然わからなかった状態なんです。今でもわかんないと思われまます。

ようやくこのライターのジョン・Z・コムルキさんという方とフェイスブック上でコンタクトを取れまして、連絡を取るうちにこういう作家がいるんだっていうこと情報交換しつつ今回の書籍にもジョンコムルキさんの文章も掲載することになったんです。

コムルキさんは本を書くだけではなくちゃんとこういった形で。私とやっていることと同じですね。ワークショップをやったり、展示をやったりというようなことも積極的にされています。

ドイツの方なので、「Druck,Druck,Druck」という、ドイツ語で「刷る、刷る、刷る」っていうんですけども、そのイベントを今年の春ぐらいですね。

何カ月か長期間やってたんですけども、企画をされていたみたいです。

ゲステットナーという向こうでは輪転機による刷りなので、こういった機械があつてっていう感じでワークショップをやっています。

この機械を持っている方っていうのがこのアーウィン・ブロックさんなんですよ。この人が海外の謄写版の今の状態を作った中心人物になってきます。この方、ものすごくモノを所有しています。

自称ゲステットナーキングといます。自称してるぐらいそれぐらい持ってます。100台以上倉庫に入れて、ワークショップの依頼があつたら行ってって、というような活動をされています。

こちらはオランダなんですけどオランダの「Jan van Eyck Accademy」のネヒューズラボっていうところがありまして、そこは印刷媒体で芸術を表現するっていうのもあるんですけど



Jan van Eyck Accademy Charles Nypels Lab



ども、この方々は実はもともとは ZINE 芸術ですね。ZINE を 1980 年代にアートとしてやり始めた方のメンバーがここで教えられています。

その方々が 2014 年にアーウィン・ブロックさんの居場所を見つけててそこから今の海外でのワークショップの流れがおこり、爆発的に人気が出てきたんですね。謄写版の海外で爆発的な人気っていうのはこの方々が発祥になります。

アーウィンブロックさん。この方向してるかということこれはゲステットナーの新聞なんですけど機関誌か何かだっ

たと思うんですけども、
「失礼ですが、今なにやってる人なんですか？」と聞いたところ
これを頂いたんですけども、何を書いているかというと

当時この1991年なんですけれども、彼は26歳なんですけれども
すでにこの時点で100台のゲストナー機をもっておりまして、

倉庫で修理をしていた 修理工ですね。
印刷機の修理の仕事する会社を立ち上げています。
昔からこういう印刷機の修理とかが好きだったようで、その昔からの夢を叶えて今この状態になっています。

この方がいなければ このリソマニアにも紹介されませんでしたし、
その方が謄写版とは何かを調べて私の方に連絡を取ってきたりとかということはなかったんで、
やっぱり「時代も繋がってきているという」ところがありますね。

私のプロフィールに戻りまして、

講座をやったりとか、町田国際版画美術館で講師としてお呼ばれさせていただいたんですけど、そこでワークショップをやったりとか、
技術者調査やったりとか、原紙のことを調べたりなどしていました。作家さんの家におじゃまして、写真を撮らせてもらってということもやっています。

で、新たな技法も提供する出来るように作ってみたりとか。

また別の角度でレーザーカッターマシンを使って製版を施してみたりとかっていう実験的なこともやっています。

製版方法検証のための 海外謄写版の調査



出来るって説明するよりもやっぱり、皆さんにやってほしいってところもあるので、
こういう商品開発であるとかということもやっていますし、

先ほども言いました海外謄写版のいろんな方法があるんですけども
製版方法の技術の検証として実際に道具を輸入して使って検証をしてみたりとかそういう活動もしています。

作家による原紙作成方法



最後ですが、作家による原紙の制作方法。

これがない謄写版が始まらないというものなんですけれども、
今作ってもらっているところはもう岐阜県に1カ所だけになっているんで、作家が小さい作品でもいいんでできるようになったら、
やっぱり「版画として道は開けるんじゃないか」と思って実験してみました。

もちろん実験したのは手本になったらこれです。堀井の原紙特許から見てそこから数字を出してきて、やっています。です
ので堀井の特許第2499号でやりました。っていうのもできますので。意外と自分でもできる技法になっています。

こういう形で小さいところですので
「フリーオープンデー」というのを週2日ほど設けて、事前の
アポイント制でやっております。プレミアムフライデーでは
この公演の上映をやったりとかっていうことも予定しておりますので、
また皆さんお誘いいただいて、お越しくだされば
なと思っています。

ありがとうございます。